

# SEIGAIHA

新潟産業大学報 青海波

NIIGATA SANGYO UNIVERSITY

2025 vol.39

## 新潟産業大学(学校法人柏専学院)の 理念について

新潟産業大学学長 梅比良真史

1

柏崎青年会議所と連携協定を締結

2

部活動・サークル活動

3

授業紹介

4

就職体験談

5

令和6年度の就職状況について

6

地域とのつながり

7

図書館だより

8

ネットの大学 managara

9

サンチャッカル通信

10

INFORMATION

11



新潟産業大学  
Niigata Sangyo University



昨年、本法人では、新潟産業大学、同附属高校の全てを含む法人の理念と目的・目標の再設定を行いました。これまで建学の精神は変わららず規定されてきましたが、その他の理念・教育目的目標などは別々に決められているかのような印象がありました。これを受け、法人全体の理念も明確に言語化しようと、理念と目的・目標を系統的に見直すこととしました。

まず、柏専学院の全教職員に法人の方針を示し、羅針盤の役目を果たすものとして、新たに経営理念・ヴィジョン・教育理念・教育目標(図1)をまさに新しい時代感覚をもって再定義しました。



図1



図2

教育改革や生徒・学生指導の拠り所となる理念・目標を定め、そして教職員が高校・大学の教育現場でそれぞれが何をすべきかという意識を持ち、自発的に行動するための指針を設定しました(図2)。

さらに校章も統一してバッジもつくり、法人の一体感を醸成し、スリーブルー(3つのS形の波の意味(行動指針))も再定義し社会の状況に対応するものになりました。

そして高校・大学は、それぞれ生徒・学生が卒業までに身につけるべきスキルと能力を生徒・学生目標で分かりやすく提示しています。大学では図3で

「経済学部」の3つのポリシー

- 1 年間2回の高大全教職員参加の「これからの高校・大学について語る会」の開催
  - 2 高大魅力化プロジェクトメンバーを中心として理念浸透を図る定例会の開催
  - 3 理念の実践例から、そして初年次教育の成果などからブランドストーリーを構築して学生募集に役立てる
- また新潟産業大学経済学部として、大学の使命を果たすために、経済学部・通信教育課程・大学院経済学研究科ではそれぞれ、つぎの3つのポリシーを定めています。
- ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
  - カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施の方針)
  - アドミッション・ポリシー (入学者の受入方針)



図3

詳しくは、大学のホームページ <https://www.nsu.ac.jp/about/university/policy/> をご覧ください。

**校章**  
 淡青、青、濃紺の3つの青をスクールカラーとしています。青は「海」「空」「朝」を意味し、そこに共通する概念は「広がり」です。大きな海原に、澄んだ空、さわやかな朝に、若者の未来が広がることを願っています。

そして、このスリー・ブルーは以下の3つのことを表しています。

**Student First**(生徒・学生第一)  
 私たちは常に生徒・学生の視点に立って、一人ひとりにあわせた自立に向けた様々なサポートを行います。

**Society & Sustainability**(持続可能な高校・大学と社会の構築)  
 私たちは社会の公器であり、継続的に教育の提供の責務があります。そして新しい時代感覚を持った人材育成を通じて持続可能な社会の構築に貢献します。

**Study & Service**(学びによる貢献)  
 私たちは様々な学びの機会を提供し、生涯学び続ける生徒・学生を輩出することで社会へ貢献していきます。

柏崎青年会議所と連携協定を締結



協定書を取り交わす梅比良眞史学長と海津勇太理事長

12月16日(月)、本学は一般社団法人柏崎青年会議所(海津勇太理事長)との連携協力協定を締結し、調印式を執り行いました。

本協定はそれぞれが保有する知識、情報やノウハウ等を用いて相互に協力し、人財の育成、地域経済の活性化と社会の発展に貢献することを目的としています。協定締結により、今後は以下の活動を協働していきます。

1. 地域経済活性化に関する情報交換及び支援
2. 研究成果等に関する情報交換及び支援
3. 次世代を担う学生に向けた地域課題を学ぶ機会の提供
4. 学生が行うフィールドワークの場の提供

5. 行政、市民、地域企業、団体、教育研究機関等の多様な主体間の連携の強化
6. まちづくりなどの地域活性化の推進

柏崎青年会議所 海津勇太理事長のコメント

「人口減少が進む中、柏崎刈羽地域を盛り上げていくことが私たちの目標。産大には地域連携の強みがあり、企業側は学生の新しい視点や意見を課題解決に役立てることができる。一方、学生には社会経験や実践の場を提供でき、この地域がさらに元気になる未来を目指していく」

梅比良眞史学長のコメント

「本学は、新しい発想で柔軟に対応できる人財の育成を目指している。青年会議所の皆さまは学生と年齢が近く、社会人としての視点を持っているのが強みだと感じる。立場を超えて、危機感を共有し人財育成と課題解決に挑んでいきたい」



第36回「紅葉祭」を開催

10月12日(土)・13日(日)、本学キャンパスで第36回「紅葉祭」(学園祭)を開催しました。

今年度のスローガンは「飛べ」。環境が変化する中で大きく飛躍し、参加者には自由に、思い切り楽しんでほしいという学生の願いが込められました。

漫才コンビの東京ホテイソン、ウォーターズによるお笑いライブ、気象予報士の國本末華氏による文化講演会、学外団体のキッズダンスや太鼓パフォーマン、軽音楽部のライブ、吹奏楽部の演奏、茶道部のお茶会、写真部の作品展示、留学生のスピーチコンテスト、ピンゴ大会など数多くの企画がありました。

飲食ブースでは、学生、卒業生、他大学の学生、地域の飲食店など計14店舗が出店。定番のお好み焼きや焼きそばから、留学生によるモンゴル料理、学生考案のスイーツまで多種多様な店舗があり、賑わいをみせていました。



「私の主張」留学生が日本での学びや経験を日本語で発表。



本学と附属高校の吹奏学部による合同演奏会。「マリーゴールド」「美女と野獣」「ホールニューワールド」を披露!



紅葉祭を締めくくる「ピンゴ大会」。豪華賞品獲得を狙って会場は大盛り上がり!



「文化講演会」気象予報士・防災士の國本末華氏より「気象災害にどう備えるか」をテーマにご講演いただきました。日頃からどのような準備をすればいいのか分かりやすくお話をされていました。

部活動・サークル活動紹介

サッカー部 インカレ初出場

サッカー部は、令和6年12月13日(金)から17日(火)にかけて開催された全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)に、北信越地区第3代表として初出場しました。



試合はリーグ戦形式の強化ラウンドで3試合を戦いました。茨城県ひたちなか地区多目的広場で行われた初戦の相手は四国学院大学(四国地区第1代表。開始1分に橋岡尚選手(経済経営学科4年)がゴールを奪い先制すると、藤本千輝選手(同3年)がPKで、さらに石渡栞選手(同2年)、東正也選手(同4年)と立て続けにゴールネットを揺らし前半で4点をリード。後半も新田幹仁選手(同1年)がゴールを決めて5-0で快勝しました。

2戦目は、ひたちなか市総合運動公園で八戸学院大学(東北地区1位)と対戦しました。前半は藤本選手のPKで先制。後半は新田選手のゴールで2-0としたものの、終了間際にPKで1点返され、アディショナルタイムにゴールを決められ引き分けました。1勝1分けの勝ち点4で迎えた最終戦は、水戸市のIFAフットボールセンターで中央大学(関東地区第4代表)



と対戦しました。ノックアウトステージ進出をかけたこの試合は、前半35分まで無失点で凌いだものの、その後立て続けに失点し前半で0-3。後半はFWを厚くして反撃を狙いましたが、全国区の壁は厚く0-8でタイムアップ。1勝1敗1分のグループ3位という結果となりました。

放送部

FMピッカラで大学学友会×産附生徒会がコラボ生出演

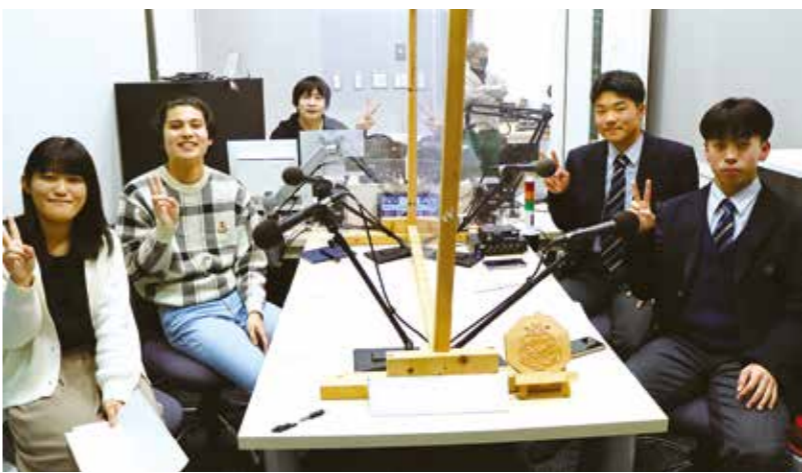
産大放送部では、毎月第2金曜日の午後7時から、柏崎コミュニティ放送(FMピッカラ)で「WHITEBOARD」を生放送しています。

今年最初となった1月10日(金)の放送では、新潟産業大学附属高校生徒会をゲストに招き、高校生×大学生のコラボによるフレッシュで熱いトークを展開しました。

今回ゲスト出演したのは、附属高校生徒会に所属する倉又夢歩さん(3年生)と佐山颯大さん(2年生)です。

初めは少し緊張した面持ちでしたが、年齢の近い大学生とのやりとりが進むにつれ、笑顔に変わっていききました。生徒

会や、所属する卓球部の活動などの質問にハキハキと答える様子は、まさに「文武両道」。とてもさわやかな印象でした。放送後、大学学友会長で放送部に所属する本田翔大さん(文化経済学科3年)は、「高校と大学の交流を深めて、今後さまざまな形で柏崎を盛り上げていきたい」と語っていました。



授業紹介

「地域振興論」

株式会社八芳園代表取締役社長

井上義則氏を招いての公開講演会

副学長 住吉 廣行

本学の専門科目「地域振興論」は、新潟県が「若者の地元定着を図る」ことを目的に、県内大学を支援する取り組みの一環として開講されています。

10月30日(水)には、株式会社八芳園の代表取締役社長井上義則氏をお招きしました。



井上義則社長

筆者と井上氏は、井上氏が常務取締役であった頃からのご縁です。岸田バイデン両首脳の日食会場として利用された国内有数の企業の経営戦略は、本授業のテーマ「地域振興」のヒントにも繋がるうえ、以前他大学での講演時に学生が感動して涙する場面を目にしたことから、本学の学生にも、今回の講演を依頼しました。

井上氏は、売り上げが落ち込む中、「TEAM for WEDDING」と

いう理念を立ち上げました。従業員が心を一つに「お客様本位の結婚式」の実現に徹することで、苦境にあった結婚披露宴売上げのV字回復を成し遂げました。講演では、この経験の具体例をビジュアル化し、実際の利用客のエピソードを基にしたプロモーションビデオを披露するなど、若者の心に届く見事なプレゼンテーションでした。



講演の様子

講演は教職員や外部の方にも好評でしたが、何よりも学生たちがいつにも増して熱心に耳を傾けていました。質疑応答の際、学生への「いちど(八芳園に)おいでよ。コーヒーぐらいはごちそうするよ」という気さくな声かけにも、学生は目を輝かせていました。学生たちにとっては、感動とともに貴重な経験が得られたことでしょう。

柏崎中央ロータリークラブ

留学生懸賞文コンテストで優秀賞を受賞

12月18日(水)、柏崎中央ロータリークラブ2024年度留学生懸賞文コンテストの表彰式が行われ、本学の留学生3名が表彰されました。



受賞後スピーチをする姜さん

コンテストの最高賞である優秀賞を受賞したのは、姜尚昆さん(大学院経済学研究科1年)です。今回の表彰を受けて姜さんは「大阪から来た私が柏崎で目にした風景は、都会の喧騒とは正反対の海も山もある豊かな自然です。そして、留学生を温かく迎え入れてくれる地元の方々がいます。この柏崎の宝を前面に出して活性化するプランをアピールしたいと思っています。卒業後も柏崎の発展に寄与していくつもりです」と力強く述べました。



左からヴさん、姜さん、海さん

また、佳作に海日翠さん(大学院経済学研究科2年)、努力賞にヴェイトオウンさん(経済経営学科2年)が選ばれ、3名は賞状を手にとり笑顔を見せていました。今後も留学生が自国の文化的視点を持ちつつ積極的に地域との交流を深め、柏崎の発展に貢献してくれることを期待しています。

4年生の就職体験談

〜後輩へのメッセージ〜



経済経営学科4年  
井上 麻矢  
(内定先 関川村)

私は、地元関川村に貢献したいという思いから、関川村役場を志望することに決めました。

まず取り掛かったのは筆記試験対策です。過去問を繰り返し解き、わからない部分はゼミでお世話になっている阿部教授に質問し、理解を深めました。また、公務員模試を受験し、結果から苦手な部分を分析し、重点的に克服しました。例えば、数的処理が苦手だった私ですが、繰り返し練習することで自信を持てるようになりました。

筆記試験の対策を概ね終えた後は、面接試験の準備に取り組みました。就職課に何度も足を運び、面接のポイントや心構えを学びました。特に就職課の高橋さんからは、「公務員試験を受験する前に一般企業も受けて慣れしておいた方がよい」というアドバイスをいただき、一般企業への併願も視野に入れました。この経験により、自分の考えを整理し、表現力を磨くことができました。

春にはエントリーシート作成に取り組み、何度も就職課を訪れて添削をお願いしました。その結果、自分の考えや意欲を的確に

伝えられる内容に仕上げることができました。このプロセスを通じて、自分自身を客観的に見つめ直す良い機会になりました。

就職活動は、多くの人にとって初めての経験であり、苦労する場面が多いかもしれませんが、それは社会人になるための重要な第一歩です。私は、関川村役場を目指して努力する中で、周囲の助けが非常に重要かを実感しました。皆さんも、自分の目標に向かって決して妥協せず、必要なときには就職課や先生、家族の力を借りてください。その支えがあれば、きっと道は開けます。応援しています！



文化経済学科4年  
佐藤 凧紗  
(内定先 越後交通株)

私が就職活動をスタートさせたのは3年生の春頃です。就職活動開始時点では志望

業界は特に決まっておらず、「出身地である新潟県内の企業で働きたい」ということしか決めていませんでした。活動の軸が定まっていなかったため、企業研究も思うように進めることができずにいました。そこでまずは合同企業説明会に何度も参加し、参加企業リス

トを見て少しでも興味を持った企業や、名前を知っている企業のブースに片っ端から出席しました。話を聞いて引き続き興味があった企業のインターンシップや会社説明会には、可能な限り参加しました。様々な業界の話

を聞き、興味を持った理由を突き詰めて考えることで、より深く自身を理解できたと思つていきます。そうして絞り込んだ志望企業の共通点は「住み続けられるまちづくり」に携われることでした。ここで目標が明確になったことで、その後の就職活動は比較的にスムーズに進められたと感じています。

自己分析を深めたことは、就職活動の進め方を考えるにも大きく役立ちました。私の就職活動の進め方は「とにかく動き続け、常に次の活動予定を入れておくこと」でした。私は自己分析を通じて、面倒くさがり

で行動を起こすのが遅いという自身の欠点を自覚したため、何もしない期間が短くなるようにしました。その結果、4年生の5月に志望企業から内定をいただきました。



経済経営学科4年  
守友 直哉  
(内定先 日本赤十字社石川県支部)

私は2年生の冬頃から就職活動を始めた。当時は公務員を目指して試験勉強に取り組んでいましたが、企業を調べていく過程で自分が働きたいと思う会社が民間の中にあつたので、就職活動の幅を広げていきました。2年生の冬からインターンシップに積極的に参加して企業への理解を深め、自分に合っているか知ることができました。私は就職活動で人の役に立つ仕事であること、困っている人や苦しんでいる人を支える仕事がいいたいという二つの軸で進めていきました。

履歴書やエントリーシートは就職課の方が先生、親など多くの方に見てもらった方がいいと思います。自分が本当にやりたいこと、自分が生かせる仕事かを知る意味でもインターンシップに参加することをお勧めします。

就職活動は事前の準備が大切です。SPIや公務員試験、適性検査など予め準備しておけば結果が目に見えて出るので精神的に楽です。面接は数をこなして慣れてきます。一人で練習するより人に聞いてもらっての方が言葉遣いや言い回し、癖など気づくことがとても多いです。面接中は気持ちのいい笑顔で面接官の目を見てハキハキ話すことが大切です。

私のように取り掛かってみてから職種、業種の幅が変わるかもしれないので、選択肢を広げる意味でも絞る意味でも、就職活動は早く始めるのがいいと思います。

就職活動で上手くいかないことがあつたら周りの人を頼ってください。体調管理を忘れず頑張ってください。応援しています。

就職を取り巻く環境の変化と就職支援

人手不足問題が年々深刻化しています。帝国データバンクの「人手不足に対する企業の動向調査(2024年1月)」によると、人手不足と感じている企業の割合は52・6%と高い水準が続いています。

春にはエントリーシート作成に取り組み、何度も就職課を訪れて添削をお願いしました。その結果、自分の考えや意欲を的確に

「若者の仕事に対する価値観の変化」については、若者が「はたらきやすい」環境だけでなく、自身のスキルや知識を高められる仕事を重視しており、また、転職に対する肯定的な考えが強まっていることも要因と考えられています。昔のような「生涯一企業」の概念は薄れつつあります。本学では、3年生の4月から就職セミナーを実施し、このよ

うな現在の求人状況を説明しながら早期から就職活動への意識を高めさせています。学生が納得できる就職活動をするためには、「企業選びの軸をもつ」と「自分の個性を知る(自己分析)」ことが重要となるため、それに向けた就職イベントを実施しています。

昨年12月7日(土)には、「就職活動集中対策講座」を実施し、参加学生はグループディスカッションの実践やマナー実践演習、模擬面接(個人面接)を行い、就職委員の教員や4年生の先輩方から「自己分析が足りない」と面接で自分の長所を活かした回答ができない」などシビアなアドバイスをもらっていました。また、2月13日(木)には、県内外の企業の方にお越しいただき「企業研究セミナー」を実施しました。学生たちは多種多様な企業の方からお話を聞かせていただき、自分の就職の軸を見つけることができましたようです。

これからも就職委員の教職員とゼミ担当教員が密に連携し、学生一人ひとりを丁寧にサポートしていきます。

令和6年度の就職内定状況

本学の就職内定状況 (令和7年1月31日現在)

	経済学部		
	男子	女子	合計
内定率 (%)	82.5	71.4	81.4
内定者数	52	5	57
上場企業内定率 (%)	10.4	20.0	11.3
上場企業内定者数	5	1	6
就職希望率 (%)	95.5	87.5	94.6
就職希望者数	63	7	70
卒業予定者	66	8	74

注：外国人留学生・社会人を除く  
内定率 (%) = 内定者数 ÷ 就職希望者数  
就職希望率 (%) = 就職希望者数 ÷ 卒業予定者数  
上場企業内定率 (%) = 上場企業内定者数 ÷ (内定者数 - 公務員合格者数 + 個人経営業内定者数)

主な就職内定先 (令和7年1月31日現在)

業種	内定先企業名
建設業	㈱興和、北陸電気工事㈱、オムニテック㈱、㈱アスカ、㈱大建、㈱さかい造園、㈱マルニココーポレーション、高柳電設工業㈱
製造業	三東テクノスチール㈱、㈱鳥梅、㈱日邦、昌和合成㈱、㈱ベルソニカ日工工業㈱、九星飲料工業㈱、エヌエスアドバンテック㈱、三和エクステリア新潟工場㈱、テーブルマーク㈱、㈱テック長沢、㈱コヤマ丸井産業㈱、永田鉄工所㈱、デンカ㈱
電気・ガス・熱供給・水道業	上越エネルギーサービス㈱
運輸業・郵便業	㈱阪急阪神エクスプレス、越後交通株、日本郵便株
卸売業	㈱マルタケ、英和株、三協テック株、渡辺パイプ沖繩株、クオレ株、鶴林株、橋本産業株新潟支店
小売業	ネットトヨタ新潟㈱、㈱スズキ自販新潟、日産プリンス新潟販売株、㈱シースペース、ダイレックス株、㈱福宝、アクシアルリテイリング株、シミズ薬品株
金融業・保険業	大阪信用金庫、長岡信用金庫
不動産・物品賃貸業	日本スピードショア株、㈱サニクリーン東京
専門・技術サービス業	税理士法人長野合同経理センター
医療・福祉	日本赤十字社石川県支部
生活関連サービス業・娯楽業	㈱ラウンドワン
他に分類されないサービス業	醍醐寺、日本空調サービス株、㈱エイジェック
地方公務・国家公務	上越市、関川村



江口教授のオススメ本

『愛に生きる』  
(講談社現代新書 86)  
鈴木鎮一(著)  
講談社

高校生だった時、自分の持って生まれた才能の低さを嘆き悲しむ気持ちになっていた時、たまたま本屋さんでこの『愛に生きる』という本に出会ったことで私は変えられました。私の人生はこの本と共にあったと言えます。

先生方の  
オススメの本を  
教えてください

Part VI

※2冊とも本学図書館に  
所蔵されています。

青木教授のオススメ本

『動物農場』  
(岩波文庫 赤 262-4)  
ジョージ・オーウェル(著)  
川端康雄(訳) 岩波書店

中学・高校時代に遠距離通学の電車の中で英語の原書で読んだ本の中の一つです。最近の生成AIの台頭を受けて『1984』と共になぜかふとこの本の記憶が蘇りました。人間の2つのソニー(想像&創造)力が試される時代になってきましたね。

新潟産業大学附属図書館の三寶

新潟産業大学教授・図書館長 金 光林

本学附属図書館の蔵書数は約14万冊と、数的には決して大きな図書館ではない。かつて人文学部があった名残りで、人文学と外国の書籍が比較的多い方である。私は20年以上新潟産業大学に勤める過程で、附属図書館の三つのありがたい存在に気付いている。図書館の学生閲覧室の脇の壁に「読書三到」という大きな文字が板に篆刻され、掲げられている。「読書三到」とは、読書に際して心・目・口の三つに集中すべきことを意味し、心を集中し、よく見つけ、一所懸命に音読すれば本の内容がよく分かるという意味である。私は図書館に入る度にこの書を目にし、ここが正に図書館だと実感が湧く。この書を書き、篆刻したのは、地元柏崎の文化人である勝田忘庵氏であり、本学の短期大学時代から図書館の座右の銘とも言えるありがたいものである。

また、その学生閲覧室の脇には『伝世叢書』という中国の膨大な古典叢書が所蔵されている。この叢書には先秦(B.C. 200年頃)から清朝末期(1927年)に至る歴史・小説・医学・宗教・兵法・

芸術など全3万巻にのぼる資料が123冊に収められている。中国古典の原著の多くを本学の図書館で閲覧できるのはこの叢書のありがたいところである。なぜ本学にこのような膨大な叢書が所蔵されているのか。これは1997年10月、交通事故で二人の学生が亡くなる痛ましい出来事があり、その際に彼らが本学に在学した記念としてご両親より寄贈された図書である。私たちはお二人の冥福を祈りつつ、総額200万円にもなるこの貴重な叢書を活用したい。

この他には、本学に人文学部が存在した名残りとして、美術・地図関係の大型書籍が多く所蔵されている。中には軽自動車の価格並みの大型シリーズ本も所蔵されているらしい。『高句麗古墳壁画』(朝鮮画報社、1985年、価格7万円)という大型本は、高句麗の古墳壁画の写真をほぼ網羅した書籍で、日本の大学図書館にはあまり所蔵されていないものである。この本のお陰で、私は授業で学生たちに高句麗の古墳壁画の魅力を十分に伝えることができた。

1年次の基礎ゼミで電子書籍の体験利用を行いました

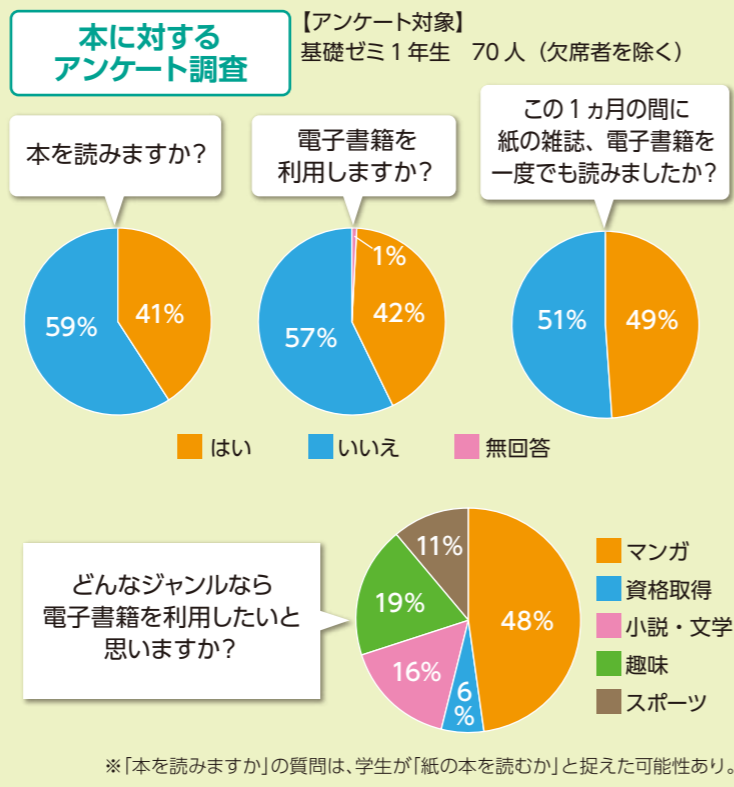
本学で利用できる電子書籍は  
[LibrariE]と[Maruzen eBook Library]です

今年度は、基礎ゼミナールの授業内で電子書籍の体験利用を行いました。併せて本に対するアンケート調査も行いました。

体験利用自体は図書館で利用説明を行った後、実際に学生のスマホでアクセスしてもらうまでのものでした。学内掲示やガイダンス資料等による文字のみの説明では浸透しにくいので、実際アクセスすることでその方法や学生個々に付与されたログインIDとパスワードを覚えてもらうことが狙いでした。

今回の取り組みにより、少しでも電子書籍を利用する学生が増えたら幸いです。また、電子書籍を利用することによって紙書籍の利点を思い出し、それぞれの利点を生かした電子書籍と紙書籍の使い分けが浸透することを願います。

アンケート調査結果によると、本を読む学生は41%で予想より本離れは進んでいないようです。電子書籍は漫画を読む際に利用する学生が多いようでした。小説が好きな学生も一定数おり、漫画以外のジャンルでも電子書籍を利用しているようです。「どのようなジャンルならば電子書籍を利用しますか?」という問いには、やはり「漫画」の声が多いものの、「小説」「資格取得」「趣味に関するジャンル」「料理(自炊)」という声も上がりました。可能な限りアンケート結果を選書に活かしていきたいと思えます。



一般の方も図書館をご利用いただけます。ご入館の際、カウンターでお手続きをお願いいたします。  
新潟産業大学附属図書館 Tel.0257-24-8435 E-Mail: library@ada.nsu.ac.jp



【附属柏崎研究所の活動】  
「第7回柏崎学シンポジウム」を開催

新潟産業大学附属柏崎研究所 春日 俊雄 主席研究員

12月1日(日)、本学202教室において「第7回柏崎学シンポジウム」を開催しました。

今回は「人口減少の中でも幸せ感を育む!」を考える取り組みの一環として、「既存組織の機能アップ&市民共創による日常の豊かさをつくる」をテーマとしました。

このシンポジウムに向けて市内の活動団体やコミセン(その後、市コミュニティ推進協議会と大学で連携協定締結)、事業者、市や県の行政機関等を訪問して30回にわたる意見交換を重ね、さらに県内で課題解決型の学びを実践している阿賀黎明、阿賀野、松代、津南中等、小出の各高校との懇談を行うなど、さまざまな意見に基づいて「地域活動の視点」をアップデートしてきました。



第1部では、①本学安達ゼミ生の村上翔琉さんと卒業生の奥野飛龍さんの「西山町における道の駅を活用した買い物難民・子育て世代への支援策の提言」、②南鯖石コミセンワイワイ里山振興部長石塚雄一郎氏による「地域活性化に向けたビレッジプランの取り

組み」、③海辺のキッチン倶楽部もく代表黒崎朝子氏の「地域に根ざした風土食堂」、④西長島なじらね代表の池田司史氏による「通院・買い物に係る支援制度の創設等」、⑤umicafe DONA代表植香織氏の「海岸沿いの古民家をリノベーションしたカフェ」等々、5組による先駆的な活動の報告がありました。

コメンテーターは本学教員の小林健彦、金光林、澁谷朋樹の三氏が務めました。

第2部のパネルディスカッションでは「創造的な地域活動の視点」をテーマに行われました。上越市柚事務所代表の関原剛氏からは、「共同体として人口500人〜1500人のムラが最適とし、新たな地域運営組織の設立」との提案がありました。また柏崎市内のIa Luce Lombr a代表



【地域活動の視点】「人口減少が進む中でも幸せ感を育む!」を考える  
R6.12.25uprd. 柏崎研究所

近いま住んでいる地域を自ら、そして共に耕していく心持ちを!

1. 地域のチカラを示す・魅せる <アウトプット>

(1) 「新しい価値・楽しさ」をつくる (前住者の活性化! ドーパミン)  
どんな方法で: 日々の暮らしの中で! 日々の学びの中で! 地域の真意: 一人ひとりの豊かさ、真意の発信! 時間の隙隙の中から魅力や価値を見出す (通学・歴史・地域の文化) 学び合う・話し合う

(2) 地域内の「ゆるいつながり」をつくる (自分高めるも共生志向: 自分ごと・地域ごと・世の中ごと)  
どんな方法で: 必要に応じて、互いの活動を知る。個々ネットワーク化 (共生社会: ペースは共通、異色の人間関係) 西部の活性化で共創による「ゆるいつながり」が生まれる

(3) 地域内の「日常の豊かさ」をつくる (モノ・ココロ・カネ・健康・幸福)  
どんな方法で: ①「既存組織の機能アップ」(形・質・量・時間、人口の減少に伴う組織の再編成、改定) ②「市民共創でニューインフラの充実(衣食住・地域内交通関係・外とつながる拠点・自然との共生・行事場)」 ③「文化(記録)」

2. 外との「つながり」をつくる <交流人口・関係人口>

どんな方法で: 地域の価値・楽しさを共有した「コトのつながり」(課題・センスを共有しリサーチ) 結果→「地域における主体的な人的活性化」(異業・異人會いの促進)「共に豊かな生活者」

3. 共に試行! 共に実践! する <自分の好きなこと、出来ることを好きな時に>

どんな方法で: トライアンドエラー! (異業・異業の仲間と共に「ゆるいつながり」を築いていく) 情報の共有・必要に応じて連携・シンポジウム等の開催

4. 若い地域人材を応援する「空気の仕組み」をつくる <公・民・学連携>

どんな方法で: 「学」の地域貢献活動により「問題・課題の発見→課題解決力、ゆるいつながり力、共創力」を育む ①「学」の地域貢献活動により「問題・課題の発見→課題解決力、ゆるいつながり力、共創力」を育む ②「学」の地域貢献活動により「問題・課題の発見→課題解決力、ゆるいつながり力、共創力」を育む

の西村遼平氏からは、「人口減少の中で、特に関係人口の大切さ」について、そして筆者からは「人口の減少に合わせた組織や活動の仕立て直しが必要」と提案しました。

終了後のアンケート(参加者115名・回答者71名)では、20〜50代の参加者が51%、評価も概ね好評でした。また「本活動が広がり、地域が盛り上がるよう自分も主体的に行動していきたいと思えます(30代男性)」という回答メッセージもあり、本シンポジウムのさらなる可能性を感じました。

講義をはじめとする大学生活のすべてがフルオンラインで完結する「ネットの大学 managara (経済学部 経済経営学科通信教育課程)」は開設より4年目を迎え、3月に初めての卒業生を送り出します。1200名を超える学生が全国各地でそれぞれのライフスタイルに合わせて学びを進めています。そんなmanagaraの直近のトピックスを中心に、キャンパスライフをご紹介します。

トピックス

オンライン交流会を実施

managaraでは、オンラインだけではなく、定期的にオフラインでの交流も実施しています。今年度は3回実施しました。第1回は5月に新潟産業大学内で開催。第2回は、6月に東京・池袋、第3回を大阪・梅田の第2学院managara B.A.S.E.で開催。全国各地から学生たちが集まりました。最初は緊張をしている学生もいましたが、自己紹介やゲームを通して緊張も少しずつ解け笑顔が増えていきました。最後は先生方とのフリートークの時間もあり、参加した学生は普段の授業では聞けない先生方の経験や趣味など貴重なお話を伺うことができたようです。オンラインだけでなく、オフラインでの交流も組み合わせたハイブリッド形式で、managara生はキャンパスライフを送っています。



オンライン学園祭 第4回 Managara祭を開催

第4回目となる今年のmanagara祭は、「私、僕が最先端！」をスローガンに掲げ、学生チームが主体となり開催しました。スローガンには「学生二人ひとりがmanagaraという最先端の環境で学んでいることに誇りを持ってほしい」という想いがこめられました。プログラムの一つであるゲストトークでは、連続ドラマ『ファーストペンギン』（日本テレビ系の主人公のモデルとなった坪内知佳さんにご出演いただきました。坪内さんには、漁師たちとともに船団丸ブランドを立ち上げたこと、学生時代について、人生のターニングポイントなどのお話をいただきました。参加者からは、「人生は奇跡の連続で、日々感謝しながら大切に生きようと思いました」「元気が湧いてきました。ありがとございますー」といった声が上がりました。また、学生による学びの発表、クイズ、ゲーム大会、ビンゴ大会など、様々な工夫を施し、盛況に開催することができました。



managara Days 続々更新中!

managaraで学ぶ学生の声をぜひご覧ください。様々な状況や想いを抱いて学ぶ学生たちのリアルな声に元気付けられます。

こちらからご覧ください



秋学期「保護者・保証人連絡会」を開催

managaraでは年に2回、「保護者・保証人連絡会」を開催し、学生生活や就職・キャリアなどのサポート状況をお伝えしています。今回は第一部に「企業への就職が内定している2025年3月卒業予定の学生3名が登場し、就職活動と学修の両立について、通信制大学ならではの感じた就職活動体験談、就職活動を通して成長できたことなどを語ってくれました。参加された方々からは、「卒業予定者による就活体験談は、生の声が聞けてとても参考になりました。」「学生さんの生の声が聞けた事は、親の立場として大変プラスになりました。」などの声が上がりました。

第二部では、学生生活、就職キャリア、卒業までの流れの3つのお部屋に分かれてご説明を行い、最後に希望者を対象とした懇親会を開催しました。

今後も情報共有や連携を通じて、学生の皆さんが充実した大学生活を送り、将来へ向けた一歩を確実に踏み出せるよう、サポートを続けてまいります。



オンラインでオープンキャンパスを開催しています。詳細はホームページをご覧ください。学生もオープンキャンパスの運営を担い、managaraならではの学生生活を未来の後輩に紹介しています。

お問い合わせ先「ネットの大学 managara 教育相談室」  
Tel : 0120 (836) 047  
E-mail : managara\_nyushi@ada.nsu.ac.jp



『サンチャッカル通信』 vol.3

新潟産業大学マスコットキャラクター・サンチャッカルがお届けするコーナー『サンチャッカル通信』。3回目について！似顔絵をいただいたちやつかる！今年さらにはさらに人気者になるちやつかるよ！



柏崎市M.Kさん  
「きれいなサンチャッカル」



そうごくん(11才)

いちとくん(9才)



【PROFILE】  
サンチャッカル  
(二代目)

2005年に産大マスコットとして誕生。名前の由来は産大のサン、チャイカ(ロシア語でカモメ)のチャ、カルメギ(朝鮮語でカモメ)のカルを足したもの。

このコーナーでは、ボクの似顔絵やお便りを募集しています。送ってくれた方には、サンチャッカル特製ステッカーをプレゼント！これを貼れば、商売繁盛 家内安全！宛先は「入試課サンチャッカル通信係」まで！大学公式HPやX、インスタもチェックしてね！



『渡り鳥だけに』

こつ見えてボクはカモメちやつかる！

白鳥とおなじ冬の渡り鳥ちやつかる

だからボクは語学堪能 複数の言語を操る……

これがホントのトリ・リンガル……ちやつかる

新潟産業大学基金 ご支援のお願い

皆さまからの温かいご支援をお待ちしております。

新潟産業大学では、皆さまからの温かいご支援による学生の学ぶ環境の向上を目指しております。これまで皆さまから頂戴したご寄付を活用させていただき、本館2階の学生トイレ及び、障がい者用トイレのリニューアル、そして教室のエアコンの入れ替えを行うことができました。皆さまからの温かいご支援の一つひとつが教育を支える大きな力となり、学生生活を豊かにすることに繋がります。ご支援に賛同いただける方は、下記のQRコードよりお手続きをお願いいたします。【寄付金のご応募は任意です】



エアコン



学生用トイレ



障がい者用トイレ

寄付金窓口  
QRコード



# INFORMATION

## 学生広報チームが SNSで情報発信!

ゼミや部活動、学内外のイベントなど、学生が取材に飛び回ります!  
学生の視点から産大の魅力をXやインスタグラムで発信していますのでぜひご覧ください。



## 参加者は入学検定料が半額に! 春のオープンキャンパスを開催!

2025.3.29(土) 10:30~13:00

最新情報を用意して  
皆さんの参加を  
お待ちしております!

### 【プログラム】

学部・学科の魅力の説明、  
入試・奨学制度の説明、在学生による  
キャンパスツアー、フリートークなど

※実施内容は変更となる可能性があります。詳細は大学HPをご覧ください。



参加お申し込み・お問合せ

☎ 0120-787-124 (入試課)  
nyushi@ada.nsu.ac.jp

お申し込みは  
コチラ →



## 学事日程 (2025年4月~9月)

月	日	行 事 等
4月	1日(火) ~ 6日(日)	履修登録期間
	2日(水) ~ 4日(金)	ガイダンス・健康診断
	5日(土)	入学式
	7日(月)	授業開始
	29日(火)	祝日授業日
5月		
6月	2日(月)	創立記念日授業日
	21日(土)	個別面談・父母の会総会
	23日(月) ~ 27日(金)	個別面談個別対応週間
7月	17日(木)	地域理解ゼミナール合同発表会(2年生)
	21日(月)	祝日授業日
	23日(水) ~ 25日(金)	補講日
	28日(月) ~ 8月1日(金)	春学期定期試験期間
8月	4日(月)	試験予備日
	5日(火)	学生夏季休業開始
	7日(木)	追試験
	12日(火) ~ 15日(金)	お盆窓口業務休業日
	18日(月) ~ 9月5日(金)	集中講義期間
9月	11日(木)	秋学期卒業業者発表
	14日(日) ~ 18日(木)	履修登録期間
	19日(金)	授業開始
	23日(火)	祝日授業日
	30日(火)	9月卒業式



### 表紙の写真「見つめる」

撮影場所: 柏崎市西山町長嶺大池にて

表紙の写真は、本学写真部の本田翔大さん  
(文化経済学科3年)の投稿作品です。

晴れて冷え込みの厳しい冬の朝、若い白鳥たちが沼のほとりに佇んでいました。

春の訪れを、のんびりと首を長くして待っているかのようです。

もしかしたら、2羽の見つめる先には春が来ているのかもしれません。

春が待ち遠しいですね・・・。



## 青海波 (せいがいは)

無限に広がる穏やかな波に未来永劫と平和な暮らしへの願いが込められた文様。

この文様の由来は遠くシルクロードまで遡るとされており、これを本学の校章(3つの波)に重ね合わせ、地域を知り世界を知ることの象徴として、本学の情報発信媒体である学報の名称に採用しました。

発行日/令和7年2月

編集・発行/新潟産業大学 新潟県柏崎市軽井川4730番地

TEL0257-24-6655 FAX0257-22-1300 <https://www.nsu.ac.jp/>